

# 2025年度「自己評価結果報告書」

学校法人 枝光学園  
枝光会駒場幼稚園

当園ではこの度、2025年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## I. 教育目標

カトリック精神に基づき、子供たちに暖かい雰囲気と良い環境を整え、時代に合わせた保育を行いたいと考えています。常に家庭との連絡を密にしながら、日々の保育、行事を通して、神さまの存在や、命の大切さを知らせ、自立心を養うよう保育を行っています。

正しい躰を行い、美しい日本語を耳にすることにより、ご挨拶、感謝、ゆるすことばが身につくよう心がけています。

## II. 今年度の重点目標

- 保育計画
- 教職員間の連携・協力
- 防災・防犯の取り組み
- 新しい取り組みの検証
- カトリック教育

## III. 評価項目と取り組み状況

評価項目		取り組み内容	取り組み状況
1	保育計画	<ul style="list-style-type: none"><li>・パンフレット作製を機に、園として重点を置くこと、どんな子どもに育つよう保育するか、この園でどんなことが身に付くのかを明文化することができたが、これを年度始め、学期始めに教職員間で確認しあう機会を持つ。</li><li>・園全体で一連の流れのある具体的な保育計画を目指す。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・年度初め、学期初めに園長含め全教員で保育方針についての話し合い、確認が行なわれている。</li><li>・昨年度のパンフレット作成を機に、各教員が園としての教育の重点、どのような子どもに育てほしいか、何が身に着くのかを常に意識しながらの保育を行っている。</li><li>・保育へのアプローチについてはそれぞれの教員のやり方があり、いずれも正しいと思うが、どの学年でどこまで、何を身に付けたらよいか、一連の保育計画をもう少し具体的に作成できると良い。</li></ul>
2	教職員間の連携・協力	<ul style="list-style-type: none"><li>・学年ごとの取り組みが他の学年の教師にもわかるよう知らせる機会を持ち、全体の保育にも生かせるようにする。</li><li>・教職員全体で一つのチームであることを意識し、学年単位でなく、お互いの学年を助け合う雰囲気づくりに努める。</li><li>・より良い保育を目指し、教師一人ひとりが自ら考え、活発に意見を交換することで保育の質を高める。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・同学年担当の教員間でのコミュニケーション、意見の交換が良くており、少ない人数でも助け合う雰囲気づくりができています。</li><li>・園全体の行事の準備、制作物の準備、手の足りない時の協力等は学年を超えて助け合う体制ができています。</li><li>・預かり保育、英語など、様々な取り組みが増えたことにより、各学年の日常的な保育の様子、取り組みなどの情報交換の機会が減ってしまっている。教員間では誰もが自由に意見を言う環境はできているが、その時間を増やせる工夫が必要である。</li></ul>

# 2025年度「自己評価結果報告書」

学校法人 枝光学園  
枝光会駒場幼稚園

評価項目		取組み内容	取組み状況
3	防災・防犯の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な条件を想定し定期的に防災・防犯訓練を行い、子どもたちともよく話し合う。訓練の結果を職員間で共有し、次の訓練に生かしていく。</li> <li>不審者対応など特に防犯に対する備えについて、よく話し合い具体的な対策を再考する。</li> </ul>	<p>B+</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は各学年の防犯、防災訓練に加えて園全体での合同防犯訓練を行った。今後も園全体での訓練の機会を増やしていく。</li> <li>各学年での訓練後の情報共有の機会も増やしたい。</li> <li>防犯については訓練だけでなく、普段から注意を払わなければならない点について詰めておく必要がある。</li> <li>防犯・防災に対する子どもの意識はそれぞれの年齢によって違う。訓練の必要性、どんなことが起こるのかなどを学年に応じてわかりやすく説明する必要がある。</li> </ul>
4	新しい取組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>宅配弁当や延長保育、希望者への英語等の新しい取組みは保護者のニーズに答えられているか検証し、新たな取組み、改善できる点を考える。また、日常の保育準備や会議などに影響が出ないよう、よりよい方法を考えていく。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宅配弁当は保護者のニーズが高く、また、子どもたちの味覚が広がるという点では良いが、宅配を好まない子どももいる。また、食事の所用時間がかかることで日常の保育にも多少の影響がある。今後も保護者の意見も取り入れながら提供の仕方を考えていきたい。</li> <li>延長保育は希望者が多かったため、午前保育日である金曜日実施、長期休みの前後も行った。また単に時間的に長く子ども預かるだけでなく、内容も充実させてきている。通常の保育と連携してそれぞれの子どもにより良い保育を目指す。</li> <li>今年は人員不足のため、延長保育前後の準備や掃除などに時間を取られ、通常業務に多少影響が出てしまったように思う。今後は延長を担当する先生と協力し良い方法を考えていく。</li> </ul>
5	カトリック教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>カトリック精神に基づいた教育が当園の中心であることを、それぞれの教員が自覚し、教えのみでなく、命の大切さや相手を思いやる心を伝えられるようにする。</li> <li>子どもたちに教えを伝えられるよう各教師が学び、指導の方法を考えていく。</li> </ul>	<p>B+</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちには日々の祈り、教師からの話、絵本を読むことなどで、カトリック精神に基づいた教育がある程度できている。</li> <li>教師は月1回の司祭からの宗教講話、教員間で聖書の朗読、解説書を読むことなどで理解を深めている。カトリック教会の行事、日々の教えから逸れないよう、いつも意識している。</li> <li>得た教えや知識を上手に子どもたちに伝えられるよう、その手段を研究していきたい。</li> </ul>

## 【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取組みが不十分である

# 2025年度「自己評価結果報告書」

学校法人 枝光学園  
枝光会駒場幼稚園

## IV. 今後取り組むべき課題

1	保育計画	<ul style="list-style-type: none"><li>・当幼稚園の保育の重点、当園として大切にしていること、育てほしい子どもの姿など、それぞれの教師が把握し、年度初め、学期初めなどに再度確認する。</li><li>・その上で保育計画は常に見直しを行い、子ども実態や周囲の状況の変化に順応できるよう作成する。</li></ul>
2	情報の発信・受信	<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者会等で各学年の子どもの様子、園としての考え、保育のポイントなどを正確に伝え、保育について、家庭の在り方について共通理解を得るよう務める。</li><li>・未就園児見学会、ホームページやInstagram等のツールを用いた情報発信など、園外の方にも幼稚園のことを知ってもらうよう務めているが、その反応についても情報を収集し、今後の発信の仕方、保育方針、園児増加へもに生かせるようにする。</li></ul>
3	新たな取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li>・預かり保育、宅配弁当など新たに始められた取り組みについて、引き続き保護者のニーズを取り入れながら園としての改善点を探っていく。</li><li>・縦割り保育の取り組みの機会を増やしているが、どの学年にもより良い成長につながるような保育計画を立てる。</li></ul>
4	教員としての資質 ・ 教員間の連携、情報共有	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員としてより高度な専門知識を身に付けるよう常に努力し、得た知識を共有できる機会を持つ。</li><li>・教職員間では相手の気持ちを考え、適切で暖かい言葉かけができるよう務める。</li><li>・担当学年以外の保育の様子を共有し、全体に活かせるようする。</li></ul>
5	カトリック教育	<ul style="list-style-type: none"><li>・当園は修道会や教会の付属園ではない為、教師が聖職者から指導を受ける機会が少ない。その点を自覚し、常に当園がカトリック精神に基づいた教育ができるよう努力する。</li><li>・子どもたちへ上手に教えが伝えられるよう、指導の方法を研究していく。</li></ul>

## V. 学校関係者の評価

<p>・いつの時代も温かく園児を迎えて下さいます。先生方や幼稚園の柔らかな雰囲気は変わらず、時代に合わせた改革(宅配弁当・お預かり保育)をして下さり、園児だけでなく母親にも寄り添って下さいます。</p> <p>・先生方はいつも明るく、笑顔で登園の子供達を迎えて下さり、一日を通して一人一人の表情、様子をよく見て下さいます。些細な変化も必ず保護者に伝えて下さり、先生方と共に子供を見守り育てる環境に感謝しております。</p> <p>・学期ごとの保護者会で園長先生がお話下さる、園児の様子、学年ごとの目標設定、家庭での声掛けのポイントは子育ての大きな指針となっております。各学年に相応しい生活習慣、言葉遣い、お友達や先生方をはじめとした目上の方への態度や配慮というものを都度丁寧に教えてくださっていると感じます。先生方の綺麗な日本語、正しい躰は一朝一夕で得られるものではなく、専門性と豊かなご経験の賜物だと思っております。</p> <p>・幼稚園では季節や、行事、風習などを子供たちに伝えることを大切にされており、園庭の梅の実から梅シロップを作ったり、新茶の季節には茶葉の香りや味を楽しむ機会などを作ってください。幼稚園で体験して楽しかったこと、嬉しかったことを話してくれる様子を見ますと、四季を感じながら丁寧に日々を過ごす子供達の様子に体験を通した学びの豊かさを実感しております。</p> <p>・延長保育では屋内外で元気に遊ぶだけでなく、季節ごとのテーマに合わせて工作をしたり、他学年交流の場としても子供たちは大変楽しみにしております。自宅で同級生以外のお名前が登場すると、交友の広がりと共に、他者理解、配慮の気持ちが芽生えているように感じております。</p> <p>・宅配のお弁当は、子供にとって不得手な食材に接することもあります。お友達と食べる時間の中で克服するものもありますし、バランスの良い内容で有り難く感じております。</p>
--

学校評価委員 関根 早貴 (園児保護者)

学校評価委員 笹井 智恵 (園児保護者)

学校評価委員 田嶋 ゆかり (園児保護者)

学校評価委員 笹川 苑子 (園児保護者)